

報道各位

東北復興宇宙ミッション2021について

東日本大震災から10年にあたる2021年3月11日に向け、東北復興の姿と支援への感謝の気持ちを全世界に伝えるための宇宙ミッションの準備が進んでいる。国際宇宙ステーション(ISS)を放送局に、宇宙飛行士をアナウンサーに見立てて世界の注目を集める計画。被災各自治体首長をメンバーとする東北復興宇宙ミッション実行委員会(山崎直子委員長、事務局・一般財団法人ワンアース)によると、復興10年を物語る写真を刷り込んだ長さ7メートル程度の横断幕を宇宙に打ち上げ、ISS 日本実験棟「きぼう」内に展開し、滞在中の JAXA 宇宙飛行士に世界への感謝のメッセージを読み上げてもらう予定。復興庁の助成(*)と JAXA の協力を得て進められるこの事業は、復興発信と地域活性化のみならず、市民参加型の新しい宇宙利用の実例としても注目される。

(*)復興庁「東日本大震災発災10年復興発信事業」選定

【事業の計画】

東日本大震災の記憶と復興10年のイメージを語る「写真」「記念品」「感謝の言葉」を国際宇宙ステーション(以下 ISS)に打ち上げる。被災三県から42の自治体が参加表明(各地首長が実行委員)。

写真等は福島県川俣町で織り上げられた薄絹に高精細印刷され、同町の小学生らが縫製して横断幕に仕上げる。これを ISS の日本実験棟「きぼう」内に展開する。JAXA 宇宙飛行士(野口聡一氏の可能性が高い)がその前に立ち(浮き)、各地で公募された世界への感謝のメッセージを要約して読み上げる。この動画を2021年3月11日、全世界に公開する。

一方、被災各地からの記念品(花や農作物の種等)を打ち上げる枠もあり、各地とも趣向をこらしている。記念品は地上帰還後、各地で活用され、地域活性化や産業創生、そして震災の記憶と教訓の伝承に息長く役立てられる。

【主なスケジュール】

- 2020年9月末: 自治体ごとにフライトする写真準備
- 2020年10月: 横断幕製作
- 2020年12月中: 自治体ごとにメッセージ収集
- 2021年1月中: 自治体ごとにフライトする記念品準備
- 2021年2月頃: 横断幕は宇宙へ(米国アンタレスロケット・シグナス補給船)
国際宇宙ステーションで JAXA 宇宙飛行士が感謝のメッセージ動画を撮影(予定)
- 2021年3月11日: 感謝のメッセージ動画世界公開へ
- 2021年5月頃: 記念物品が宇宙へ(米国ファルコン9ロケット・ドラゴン補給船)
- 2021年6月: 横断幕、記念品とも地上帰還(太平洋着水・ドラゴン補給船)
- 2021年7月: 物品日本帰国、以後各地で復興および地域振興に活用

【実施体制】 敬称略・順不同

- 委員長 山崎直子(宇宙飛行士・一般財団法人ワンアース名誉顧問)
- 委員 42自治体の首長(別紙の通り)
- 特別委員(復興に協力する全国の自治体) 渡辺英子(山梨県北杜市長)、大石弘秋(高知県仁淀川町長)、坂本浩之(福島県三春町長)、守本憲弘(兵庫県南あわじ市長) ほか
- 事務局長 長谷川洋一(一般財団法人ワンアース代表理事・きぼうの桜計画代表)
- 特別協力 三陸鉄道株式会社、一般社団法人榎音(大榎町)、日本宇宙少年団福島分団(福島市)、株式会社夢舞台(兵庫県淡路市)、Tohoku Space Community(東北各県の大学生団体)

【お問い合わせ】 一般財団法人ワンアース 代表理事 長谷川洋一

Mail: hasegawa@the-one-earth.org HP: <http://www.the-one-earth.org/jp/>

〒301-0003 茨城県龍ヶ崎市平台 4-20-6 TEL: 09092308586

別紙・実施体制（2020年10月2日現在）

東北復興宇宙ミッション実行委員会

委員長 山崎直子 宇宙飛行士・一般財団法人ワンアース名誉顧問

委員	水上信宏	岩手県洋野町長
委員	遠藤謙一	岩手県久慈市長
委員	小田祐士	岩手県野田村長
委員	証屋伸夫	岩手県普代村長
委員	石原 弘	岩手県田野畑村長
委員	中居健一	岩手県岩泉町長
委員	山本正徳	岩手県宮古市長
委員	佐藤信逸	岩手県山田町長
委員	平野公三	岩手県大槌町長
委員	野田武則	岩手県釜石市長
委員	戸田公明	岩手県大船渡市長
委員	戸羽 太	岩手県陸前高田市長
委員	菅原 茂	宮城県気仙沼市長
委員	佐藤 仁	宮城県南三陸町長
委員	須田善明	宮城県女川町長
委員	亀山 紘	宮城県石巻市長
委員	渥美 巖	宮城県東松島市長
委員	櫻井公一	宮城県松島町長
委員	熊谷 大	宮城県利府町長
委員	佐藤光樹	宮城県塩竈市長
委員	寺澤 薫	宮城県七ヶ浜町長
委員	菊地健次郎	宮城県多賀城市長
委員	郡 和子	宮城県仙台市長
委員	山田司郎	宮城県名取市長
委員	菊地啓夫	宮城県岩沼市長
委員	山田周伸	宮城県亘理町長
委員	齋藤俊夫	宮城県山元町長
委員	大堀 武	福島県新地町長
委員	立谷秀清	福島県相馬市長
委員	門馬和夫	福島県南相馬市長
委員	吉田数博	福島県浪江町長
委員	伊澤史朗	福島県双葉町長
委員	吉田 淳	福島県大熊町長
委員	宮本皓一	福島県富岡町長
委員	松本幸英	福島県檜葉町長
委員	遠藤 智	福島県広野町長
委員	清水敏男	福島県いわき市長
委員	木幡 浩	福島県福島市長
委員	佐藤金正	福島県川俣町長
委員	菅野典雄	福島県飯舘村長
委員	本田仁一	福島県田村市長
委員	橋本克也	福島県須賀川市長

特別委員 渡辺英子 山梨県北杜市長（きぼうの桜苗元）
特別委員 大石弘秋 高知県仁淀川町長（きぼうの桜苗元）
特別委員 坂本浩之 福島県三春町長（きぼうの桜苗元）
特別委員 守本憲弘 兵庫県南あわじ市長

事務局長 長谷川洋一 一般財団法人ワンアース代表理事

特別協力 三陸鉄道株式会社、一般社団法人槌音（岩手県大槌町）、Tohoku Space Community
日本宇宙少年団福島分団、株式会社夢舞台（兵庫県淡路市）

助成 復興庁（東日本大震災発災10年復興発信事業）

実行委員長 山崎直子宇宙飛行士からのメッセージ

東日本大震災から十年という大きな区切りを迎えるにあたり、私たちは「東北復興宇宙ミッション」を立ち上げました。

国際宇宙ステーションから全世界へ、復興の今の姿と、これまでの御支援に対する感謝の気持ちを発信する計画です。

すでに多くの東北の自治体や被災者の皆さんの賛同を得て動きだしていますが、この事業を歴史に残るものにしていくためにも、オールジャパンでのさらに多くのご賛同、ご協力をいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ここに至る経緯(きぼうの桜計画)

一般財団法人ワンアースは震災以来、被災三県の各自治体とともに「きぼうの桜計画」を進めてきた。

きぼうの桜計画とは、若田光一宇宙飛行士とともにその種が宇宙を旅した日本各地の巨大桜(山高神代桜、三春滝桜、ひょうたん桜等)の直系子孫樹(宇宙桜)を津波到達点上に植え、千年風化しない避難の目印として、そして宇宙からも見える復興のシンボルとして未来に残す事業。2020年3月までに14都市で植樹が完了し、今後、全被災都市(約40)への植樹を目指している。

その過程で醸成された被災地ネットワークに基づき、2017年から毎年持ち回りで「きぼうの桜サミット」を開催し、未来の地域創生のための広域交流を続けている。

このサミットで協議してきた結果、2021年3月、復興10年という節目に、世界中から戴いたこれまでの支援に対する感謝の気持ちを国際宇宙ステーションから発信しようという気運が盛り上がり、このたびJAXAの協力を得て実現に向けて動き出した。

きぼうの桜サミットを通じて積極的に広域交流を進めてきた自治体の首長らが発起人となり、ワンアースの名誉顧問である山崎直子宇宙飛行士が委員長となり、被災三県沿岸の全自治体と福島県内陸の自治体に呼びかけ参加を促している。

【宇宙桜とは】2008年に有人宇宙システム株式会社(JAMSS)が行った宇宙文化事業「花伝説・宙へ!」により誕生した桜。日本各地で少年少女らの手によって集められた千年級の名桜(山高神代桜、三春滝桜、根尾谷淡墨桜、醍醐桜、ひょうたん桜、角館武家屋敷枝垂桜など)の種が、若田光一宇宙飛行士とともに国際宇宙ステーション「きぼう」に8ヶ月半(2008.11/15から2009.7/31)滞在し、地球帰還後にそのごく一部が発芽して「宇宙桜」が生まれた。同事業を発案した長谷川洋一(当時JAMSS企画課長)が、2015年に一般財団法人ワンアースを設立し、以後、宇宙桜を活用した復興や地域振興に専念している。宇宙桜の苗は現在でも稀少だが、ワンアースの呼びかけに応え、苗元各地は東北復興のために苗の贈呈準備をしている。